

## 1 野鳥を守る活動

### ●環境に関わる政策に対し、複数のパブリックコメント等で意見を提出



風力発電施設とチュウヒ

国や自治体が実施するパブリックコメントは、民間の意見を政策に反映させる大切な機会です。当会は、関係省庁や政党、議員への提言のほか、2024年度の「環境基本計画」「エネルギー基本計画」の改定時に、再生可能エネルギーとして導入が進む洋上および陸上風力発電事業において、生物多様性保全への配慮を求める意見を提出しました。また今後改定予定の「食料・農業・農村基本計画」については、パブリックコメントに加え農林水産省との意見交換会に参加し、環境負荷の低減だけでなく、向上を目指した十分な配慮がされるよう意見を述べ、一部が反映されました。今後も国の政策にNGOの視点が活かされるよう関与していきます。

### ●「流出プラスチック類の野鳥への被害状況調査」を開始



漁網に絡まり漂着した海鳥

鳥類の中でも急激に数を減らしている海鳥は、世界の約362種のうち113種(約31%)で絶滅のおそれがあります。主な原因は漁業による混獲や繁殖地での外来捕食者、餌となる魚の減少などですが、プラスチックの年間生産量が増加し始めた1950年代以降は、プラスチックごみの誤飲や流出漁具への絡まりが大きな脅威となっています。国内でも被害事例は報告されていますが、情報が限られており実態は不明です。そこで当会は、2024年4月から流出プラスチック類による野鳥の被害や誤飲・誤食の具体事例を収集する調査を始めました。集まった情報は、普及啓発や広報活動をはじめプラスチックごみ問題解決に向けた活動に活用していく予定です。

## 2 自然の大切さを普及する活動

### ●三宅島における当会の活動が、日本サンゴ礁学会「保全・教育普及奨励賞」を受賞



表彰を受ける三宅島のレンジャー

「三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館」では、1993年の開館以来当会レンジャーが常駐し、エコツーリズムの推進、自然環境の調査・保護活動、普及教育活動などを行なっています。鳥類では当会の自然保護事業とも連携しアカコッコやカムリウミスズメの保護活動を行なうほか、海水魚やサンゴの調査、観察会など海の活動も行なっています。このほど、サンゴの調査や三宅島の自然への理解と保護の推進に長期的かつ継続的に貢献していることなどが評価され、2024年11月に開催された「日本サンゴ礁学会第27回大会」において「保全・教育普及奨励賞」を受賞しました。今後も活動を通じて三宅島の魅力や重要性を発信していきます。

### ●多摩川河川敷で「クリーンアップ探鳥会」を開催



イベント参加者のみなさま

当会では、海洋プラスチック問題への対策として、政策提言や調査活動、セミナー開催などの普及活動に取り組んでいます。今回その新たな取り組みとして、バードウォッチングとごみ拾いを組み合わせたイベント「クリーンアップ探鳥会」を企画し、2024年11月30日に都内の多摩川河川敷で開催しました。20名の参加者と共に1時間のバードウォッチングを楽しみ、続いて海鳥へのプラスチックの悪影響やその防止策について解説を行なった後、ごみ拾いを実施し、約1時間で20リットル袋40個分余りのごみを集めました。参加者からは、ごみの多さに驚く声やプラスチック問題への社会全体での取り組みを求める声が上がりました。今後も野鳥保護を目的としたごみ拾い活動の広がりを目指してまいります。